

2020年度1学期を迎えて

副校長 竹山 幸男

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。2、3年生の皆さん、それぞれ無事進級されて、次の学年に進みました。2020年度の新学期は、感染症予防の観点から、入学式と登校日だけを行う特別なかたちでスタートしました。生徒の皆さんも、ご自宅においてこれから学校で行われるいつもの学びとは違う形態になりますが、しっかりと取り組んでいただくことを期待しています。

臨時休校期間中の新たな学びについては、1週間単位で進められていく予定です。最初の週は、生徒の皆さんにとっても、私たち教員にとってもオリエンテーション期間となります。iPadをしっかりと設定していただいて、それぞれの課題が届いているか、また、提出していけるかなどについて、1つずつ確認しながら進めていくことになると思います。担任の先生からの連絡もなされるので、どんな状況か、皆さんの様子を含めて応答をしていただきますよう、よろしく願いいたします。（詳細については、別途ホームページ上のお知らせをご覧ください。）また、「2020年度版ICT活用・情報倫理ハンドブック」（同志社中学校）の1～28ページにiPadでの学習に際してのさまざまな活用ガイドが掲載されていますので、しっかりと読んでおきましょう。（4月9日（木）または10日（金）の登校日に配布しております。欠席の皆さんには、学校より郵送しております。）

生徒の皆さんだけではなく、私たち教職員も、慣れていない部分があつてうまくいかないこともあるかと思しますので、うまくいかないことを恥ずかしがらずに取り組んでいただければと思います。特に、1年生の皆さんは、何もかもが初めてで戸惑うことも多いことと思いますが、少しずつ慣れていければと思いますので、これから一緒にがんばっていきましょう。そして、機器の操作等不明な点があれば、学校までご連絡くだされば、折り返し担当者からご連絡いたします。（問い合わせが多い場合は、折り返しのご返答に時間がかかるかもしれませんが、お待ちくだされば幸いです。）

さて、昨日4月12日の日曜日は、キリスト教会の暦では、復活節（イースター）の記念日でした。ヨハネによる福音書20章1節～10節（新共同訳新約聖書：209ページ）を開いて読んでみましょう。「さて、週の初めの日、朝早く、まだ暗いうちにマグダラのマリヤは墓に行った。そして、墓から石が取りのけてあるのを見た。・・・それから、先に墓に着いたもう一人の弟子も入って来て、見て、信じた。」新約聖書によれば、イースターの3日前（金曜日）、イエス・キリストの十字架のできごとがあり、多くの弟子たちや信仰を持った人々は、その急なできごとの中で絶望し、不安になっていました。そして、いつ自分たちも捕まって同じような目にあうのか、びくびくとおびえながら恐れ、隠れていた人たちもいたのです。

同志社の創立者・新島先生は、説教の中でイエス・キリストの復活のできごとを次のように語っています。（「真理の証シ」新島襄全集2巻116ページ）「復活したイエス・キリストは、最初はガリラヤより現われ、10人の使徒、トマスに現れた。40日の間に数回信徒に現われ、天国の奥義を語られ、弟子たちにこの福音を世界中に語るように命じられ、カルメル山より昇天された。この時より、弟子たちは、深くキリストの蘇生（復活）を信じ、彼らの信仰はますます強くなり、みな喜びに満たされて、エルサレムに帰っていった。」また、復活節（イースター）にかかわるものとして、エマオ途上の弟子たちの不安な様子とそれに寄り添われ語りかけられるイエス・キリストの姿（ルカによる福音書24章13節～参照）は、レンブラントなど数々の画家によって聖書の重要な主題として描かれてきました。まさに、この復活の主イエス・キリストと出会うことは、キリスト教の信仰にとっての生命線とも言われているところです。

私たちが今、教職員はじめ大人も含めて世界中が、先の予測が難しい状況の中に立たされています。3月の2019年度3学期終業式の中でも紹介した、「ペスト」（アルベール・カミュ）では、「このいまましい病気め、かかっている連中まで心は汚染している。」と主人公が語っています。新型コロナウイルスを含め感染症を引き起こすウイルスを、私たちはふつうに見ることができません。その性質や対処もわかってきたところもありますが、まだ未解明な部分も残されています。

「ペスト」の作品中のこの言葉は、感染症に対する恐れや不安が、社会、経済の動きや私たちの生活だけでなく、心や精神まで影響を与えてしまう可能性があることを、時代を超えて警鐘されているものと受け止める必要があるでしょう。

私たちの「心」がどうあるか、を考えていくときに、キリスト教主義学校である同志社中学校で学ぶ私たちは、今こそ、主イエス・キリストが、十字架と復活を通じて伝えられた、私たち一人ひとりが神様からの愛されたかけがいのない大切な存在であることと、神様から愛されているように私たちが互いに愛し合うこと（隣人愛）の大切さを確認することが大切です。復活節（イースター）のできごとの後に、イエス・キリストが恐れや不安の中にいる人々に寄り添われ語りかけられたように、今も神様からの平安を与えるために「心を騒がせないように」「恐れてはなりません」（ヨハネによる福音書14章27節）と愛をもって私たち一人一人に寄り添い語りかけておられます。

2020年度の同志社中学校新学期を迎えるにあたり、皆さんの健康が守られることを最優先に考えつつ、中学生としての学びが開始され継続することができるよう学校としても努力していきたいと考えておりますので、ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。このメッセージを以て、1学期の始業式の礼拝ならびにお話に代えさせていただきます。

「私は山に向かって目をあげる。私の助けは、どこから来るのだろうか。私の助けは、天地を造られた主から来る。」（詩編121篇1～2節）